

平成30年8月1日

第22回文化庁メディア芸術祭 作品募集

文化庁では、優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、発表の場と鑑賞の機会を提供するため、平成9年度から「文化庁メディア芸術祭」を実施しています。

第22回の作品募集についてお知らせします。

1. 募集

第22回は別紙のとおり、平成30年8月1日（水）から10月5日（金）までの期間、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において、作品を募集します。

2. 贈賞

審査委員会による審査を経て、部門ごとに大賞、優秀賞、新人賞を決定し、それぞれに賞状（文部科学大臣賞）、トロフィー、副賞（大賞100万円、優秀賞50万円、新人賞30万円）が贈られます。国際的なフェスティバルへと成長を続けており、副賞の賞金を増額しています。（前回まで、大賞60万円、優秀賞30万円、新人賞20万円）

3. 受賞発表・贈呈式・受賞作品展（予定）

受賞発表 2019年3月

贈呈式 2019年6月

受賞作品展 2019年6月

会場：8月中に下記ウェブサイトにて発表予定

＜担当＞文化庁文化部芸術文化課支援推進室メディア芸術交流係

支援推進室長 柏田 昭生（内線 2858）

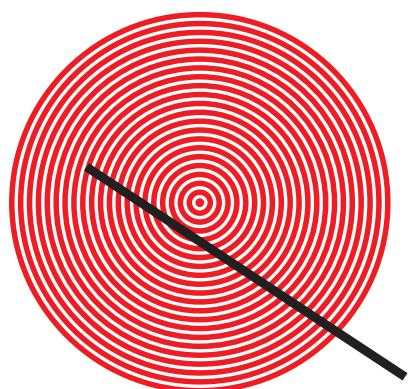
支援推進室長補佐 伊野 哲也（内線 2062）

メディア芸術交流係長 伊藤 由美（内線 2895）

電話：03-5253-4111（代表）

ウェブサイト <http://festival.j-mediaarts.jp>

第22回文化庁メディア芸術祭 作品募集を開始 時代を映し出す新たな表現を募集します。 2018年8月1日(水)から10月5日(金)まで。



第22回 文化庁 メディア芸術祭

22nd JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL

この度、文化庁は、「第22回文化庁メディア芸術祭」の作品募集を2018年8月1日(水)～10月5日(金)まで行います。

アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門で過去1年間(2017年10月6日～2018年10月5日)の間に完成又は、既に完成してこの期間内に公開された作品を対象に、プロ、アマチュア、自主制作、商業作品を問わず、世界中から広く作品を募集します。

応募作品は審査委員会による審査を経て、各部門の大賞、優秀賞、新人賞、審査委員会推薦作品と功労賞を2019年3月に発表いたします。

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成9年度(1997年)の開催以来、高い芸術性や創造性をもつ優れた作品を顕彰し、受賞作品等の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。第21回は、世界98の国と地域から4,192作品の応募があり、文化庁メディア芸術祭は国際的なフェスティバルへと成長を続けています。また、文化庁では、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を国内外で広く紹介する多彩な事業を実施しています。海外・国内展開や創作活動支援等の関連事業を通じ、時代を見据えたフェスティバルを目指しています。

募集期間：2018年8月1日(水)～10月5日(金)日本時間 18:00必着

文化庁メディア芸術祭[受賞作品展・コンテスト] ウェブサイト <http://festival.j-mediaarts.jp>

報道問合せ先

文化庁メディア芸術祭事務局[CG-ARTS内] 広報担当 瀬賀

Email : jmaf-pr@cgartarts.or.jp

Tel : 03-3535-3501 Fax : 03-3562-4840 ※受付時間：平日10時～18時

〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-16

1. 第22回文化庁メディア芸術祭 募集概要

文化庁メディア芸術祭〔受賞作品展・コンテスト〕ウェブサイト (<http://festival.j-mediaarts.jp>) より御応募ください。
必要情報を入力し、審査用資料のデータをアップロードすれば完了です。

※詳細は、文化庁メディア芸術祭〔受賞作品展・コンテスト〕ウェブサイト、募集要項で御確認ください。

募集部門 アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門が対象です。

☐ **アート部門**

インタラクティブアート、メディアインスタレーション、映像作品、映像インスタレーション、グラフィックアート（写真を含む）、ネットアート、メディアパフォーマンス等

☐ **エンターテインメント部門**

ゲーム（テレビゲーム、オンラインゲーム等）、映像・音響作品（ミュージックビデオ、自主制作・広告映像等）、空間表現（特殊映像効果・演出、パフォーマンスを含む）、ガジェット（プロダクト、ツールを含む）、ウェブ（ウェブプロモーション、オープンソースプロジェクトを含む）、アプリケーション等

☐ **アニメーション部門**

劇場アニメーション、短編アニメーション、テレビアニメーション、オリジナルビデオアニメーション（OVA）等

☐ **マンガ部門**

単行本で発行されたマンガ、雑誌等に掲載されたマンガ（連載中の作品を含む）、コンピュータや携帯情報端末等で閲覧可能なマンガ、同人誌等の自主制作のマンガ等

応募条件 作品が下記に該当するかを必ず確認の上で御応募ください。

- ☐ 2017年10月6日（金）から2018年10月5日（金）までの間に完成又は、既に完成してこの期間内に公開された作品。

※更新、リニューアルされた作品で上記期間中に完成、又は発表された作品も応募可能です。

※応募する作品数に制限はありませんが、同一の作品を複数の部門に重複して応募することはできません。

- ☐ 応募者は作品の著作権を有することが必要です。

代理の方が応募する場合は、必ず著作権者に承諾を得てください。

※応募申込みをもって、応募者及び作者の同意を得られたものとします。

※募集要項・文化庁メディア芸術祭〔受賞作品展・コンテスト〕ウェブサイトに記載された応募規定を必ずお読みいただき、同意の上で御応募ください。

各 賞 受賞発表は2019年3月を予定しています。

審査委員会による審査を経て、部門ごとに大賞、優秀賞、新人賞を決定し、それぞれに賞状（文部科学大臣賞）、トロフィー、副賞（大賞100万円、優秀賞50万円、新人賞30万円）が贈られます。国際的なフェスティバルへと成長を続けており、副賞の賞金を増額しています。（前回まで、大賞60万円、優秀賞30万円、新人賞20万円）

メディア芸術祭賞（文部科学大臣賞）

大 賞：賞状、トロフィー、副賞100万円

優 秀 賞：賞状、トロフィー、副賞50万円

新 人 賞：賞状、トロフィー、副賞30万円

功 勞 賞：賞状、トロフィー

このほか、優れた作品を審査委員会推薦作品として選定します。

また、審査委員会の推薦により、メディア芸術分野に貢献のあった方に対して功労賞を贈呈します。

受賞作品は国内外で広く紹介されます。

文化庁メディア芸術祭での受賞は、海外のフェスティバルへの出展や創作活動の支援等、関連事業を通じた新たな活動にもつながります。「文化庁メディア芸術祭地方展」では、受賞作品を中心に優れたメディア芸術作品を国内各地で展示・上映し、「メディア芸術海外展開事業」では、海外のメディア芸術関連のフェスティバル等で受賞作品等を紹介します。また「メディア芸術クリエイター育成支援事業」では、文化庁メディア芸術祭において受賞もしくは審査委員会推薦作品に選ばれた若手クリエイターを対象とし、新しい作品の企画を募り、制作費の支援や専門家によるアドバイスの提供等、創作活動を支援するとともに、海外の優れたクリエイターを招へいし国際交流を推進します。



文化庁メディア芸術祭 中国・廈門展 2018『CHARACTER』
閩南大戲院（廈門） photo: Mao Yamamoto



文化庁メディア芸術祭石垣島展「ひかりきらめくイマジネーション」
（平成29年度）

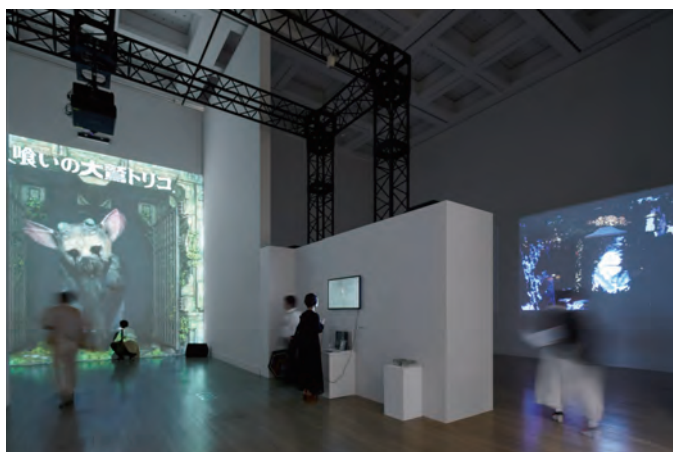


平成29年度メディア芸術クリエイター育成支援事業

第22回文化庁メディア芸術祭 開催概要

作品募集	2018年8月1日(水)～10月5日(金) 日本時間 18:00 必着
受賞発表	2019年3月
受賞作品展	2019年6月予定
	会場：8月中に下記ウェブサイトにて発表予定

文化庁メディア芸術祭 [受賞作品展・コンテスト] ウェブサイト <http://festival.j-mediaarts.jp>



第21回文化庁メディア芸術祭 受賞作品展の様子

2. 文化庁メディア芸術祭について

■同時代の表現の諸相をうつす“メディア芸術”

新しいメディアとともに発展する表現＝「メディア芸術」。メディアテクノロジーの発達によって拡張を遂げる作品は、既存の表現領域に留まらない新たな文化を創成するとともに現在のテクノロジーや社会状況に批評的な視点を与え、多様化する価値観に対し想像力の共有をもたらします。「メディア芸術」は、次代に続く文化を醸成する媒体として、同時代の表現の諸相をうつしだします。

■ボーダレスに表現と向き合い，“現在”を見出すフェスティバル

文化庁メディア芸術祭は、情報技術やメディアの上に生まれる多様な表現活動に対し、“現在”を問い続けるフェスティバルです。世界各地から集う多数の作品は、情報技術やメディアの拡大と浸透によって変化する思考やコミュニケーションの様式を反映し、既存の手法や形式に留まらない多様な表現のあり方を提示します。本フェスティバルでは、時代とともに進化する表現に“現在”を見出し、優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、その鑑賞機会である受賞作品展を通じて、多彩な作品を広く紹介します。メディア芸術作品が有するリアリティや創造性には、同時代の芸術や文化をより深く理解するための新たな発見があるでしょう。

3. 時代を映し出す新たな表現を募集します。

第21回は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において、下記大賞作品のような多様な作品が受賞しました。

アート部門：

テクノロジーとともに新たな価値観を探り、批評的な視点をもつ様々な表現

インタラクティブアート、メディアインスタレーション、映像作品、映像インスタレーション、グラフィックアート（写真を含む）、ネットアート、メディアパフォーマンス等、既存のジャンルを越境する意欲的な作品の応募をお待ちしています。

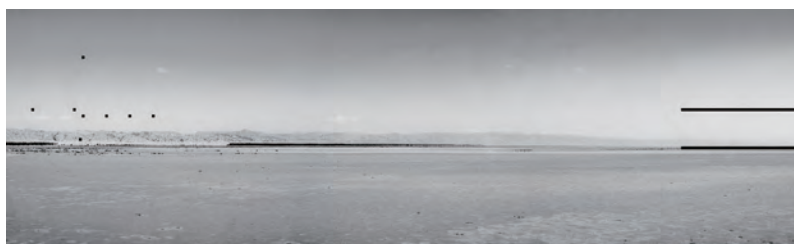
第21回文化庁メディア芸術祭
アート部門 大賞受賞作品

『Interstices / Opus I – Opus II』

映像インスタレーション

Haythem ZAKARIA [チュニジア]

砂漠の風景を捉えた静的な『Opus I』と、海の風景を捉えた動的な『Opus II』は、それぞれの映像にデジタル処理を行うことで、オリジナルの風景を超越する「メタ・ランドスケープ」を引き出すインスタレーションプロジェクト。時間と空間が抽象化された映像は、土地/風景の本質とは何かを問いかけている。



© Haythem Zakaria

エンターテインメント部門：

「面白さ」、「楽しさ」とは何かを問い、遊びや体験をつくりだす多種多様な形式の作品

ゲーム（テレビゲーム、オンラインゲーム等）、映像・音響作品（ミュージックビデオ、自主制作・広告映像等）、空間表現（特殊映像効果・演出、パフォーマンスを含む）、ガジェット（プロダクト、ツールを含む）、ウェブ（ウェブプロモーション、オープンソースプロジェクトを含む）、アプリケーション等、創意あふれる作品の応募をお待ちしています。

第21回文化庁メディア芸術祭
エンターテインメント部門 大賞受賞作品

『人喰いの大鷲トリコ』

ゲーム

『人喰いの大鷲トリコ』開発チーム
(代表：上田 文人)[日本]

主人公の少年を操作し、巨大な生き物、大鷲のトリコとコミュニケーションを取りながら、忘れ去られた巨大遺跡の様々な仕掛けを解き明かしていくアドベンチャーゲーム。この作品が目指しているのは、架空の動物に対する心の絆という、これまでのゲームの文法とはまったく異なるゲーム体験である。



© 2016 Sony Interactive Entertainment Inc.

アニメーション部門：

豊かな物語性や個性的な表現力をもった、完成度とオリジナリティを極めた作品

劇場アニメーション、短編アニメーション、テレビアニメーション、オリジナルビデオアニメーション(OVA)等、手描きによる作画からフル3DCG、それらを融合させた技法まで幅広い作品の応募をお待ちしています。

第21回文化庁メディア芸術祭
アニメーション部門 大賞受賞作品

『この世界の片隅に』

劇場アニメーション

片渕 須直 [日本]

この史代の同名マンガ(2008-09)を原作に、片渕須直が6年の歳月をかけて劇場アニメーション化した作品。文献や地図、現地調査、当時そこに住んでいた人へのヒアリングなどの綿密な考証により、広島市の街並みが再現されており、史実とリンクしている箇所は、その日時の天候までも忠実に作品に反映させる徹底ぶり、登場人物たちの生きる世界の実在感を補強している。



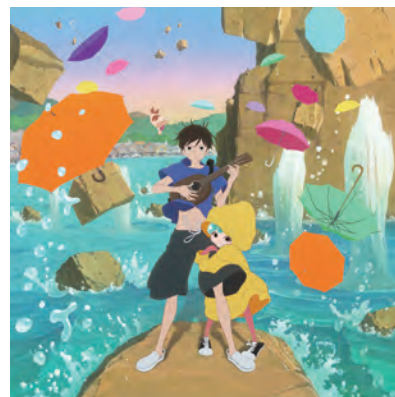
© Fumiyo Kouno/Futabasha/Konosekai no katasumini Project

『夜明け告げるルーのうた』

劇場アニメーション

湯浅 政明 [日本]

全編フラッシュアニメーションを用いたオリジナル劇場アニメーション。随所に挟まれる歌とダンスの場面は、独特な遠近法や色彩感覚、自在に揺らぐ造形、メリハリのある滑らかな動きによって描かれ、作品に生き生きとした躍動感を与えている。



© 2017 Lu Film partners

マンガ部門：

単行本で発行されたマンガをはじめ、ネットや電子媒体による発表形態の多様化に伴い、マンガの可能性を拡張するような作品
単行本で発行されたマンガ、雑誌等に掲載されたマンガ、コンピュータや携帯情報端末等で閲覧可能なマンガ、同人誌等の自主制作のマンガ等、世界に届くパワーあふれる作品の応募をお待ちしています。

第21回文化庁メディア芸術祭
マンガ部門 大賞受賞作品

『ねえ、ママ』

池辺 葵 [日本]

これまで様々な女性の生き方を描いてきた池辺葵の短編集。本作には「母」をモチーフにした7つの物語が収録されている。それぞれのストーリーは緩やかに繋がり、「母」の愛も人と人の繋がりのなかで周囲の人々に伝播してゆく。時折大きなコマで描かれる広々とした風景は、登場人物たちを包み込み、少ないセリフと大きな余白、柔らかな明暗のついた絵によって、読者には深い余韻を残す。



© Aoi Ikebe (AKITASHOTEN) 2017

4. 第22回文化庁メディア芸術祭実行委員会 (予定)

- 会長** 宮田 亮平 (文化庁長官)
- 運営委員** 建畠 哲 (多摩美術大学長), 古川 タク (アニメーション作家) 他
- 審査委員**
- アート部門**
阿部 一直 (キュレーター／アートプロデューサー)
他4名
- エンターテインメント部門**
遠藤 雅伸 (ゲームクリエイター／東京工芸大学教授)
川田 十夢 (開発者／AR三兄弟 長男)
齋藤 精一 (株式会社ライゾマティクス代表取締役／クリエイティブディレクター)
佐藤 直樹 (アートディレクター／多摩美術大学教授)
中川 大地 (評論家／編集者)
- アニメーション部門**
宇田 鋼之介 (アニメーション監督・演出)
西久保 瑞穂 (映像ディレクター)
森野 和馬 (映像作家／CGアーティスト)
横田 正夫 (医学博士／博士〈心理学〉／日本大学教授)
他1名
- マンガ部門**
表 智之 (北九州市漫画ミュージアム専門研究員)
川原 和子 (マンガエッセイスト)
白井 弓子 (マンガ家)
みなもと 太郎 (漫画家／マンガ研究家)
他1名
- 選考委員**
- アート部門**
金澤 韻 (インディペンデント・キュレーター／十和田市現代美術館学芸統括)
田所 淳 (クリエイティブ・コーダー)
渡邊 朋也 (美術家／タレント)
他3名
- マンガ部門**
おぎの ひとし (マンガ家／東京工芸大学助教)
小田切 博 (マンガ研究者)
倉持 佳代子 (京都精華大学国際マンガ研究センター研究員)
西原 麻里 (愛知学泉大学講師)
松田 尚正 (マンガ家／京都造形芸術大学講師)
三浦 知志 (尚絅大学准教授)

文化庁メディア芸術祭総合ウェブサイト <http://j-mediaarts.jp>
文化庁メディア芸術祭 [受賞作品展・コンテスト] ウェブサイト <http://festival.j-mediaarts.jp>
Facebook <http://www.facebook.com/JapanMediaArtsFestival>
Twitter @JMediaArtsFes
主催 文化庁メディア芸術祭実行委員会

報道問合せ先

文化庁メディア芸術祭事務局 [CG-ARTS内] 広報担当 瀬賀
Email : jmaf-pr@cgartarts.or.jp
Tel : 03-3535-3501 Fax : 03-3562-4840 ※受付時間: 平日10時～18時
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-16